

【常陸太田市】

校務DX計画

【現状】

常陸太田市では、令和3年からペーパーレス化に取り組んでおり、一定の成果は出てきているが、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一掃が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) クラウドツールの未活用

物理サーバによる運用を行っているため、教職員は職員室内での業務が必要となっており、ちょっとした事務手続きなどにおいても例えば休日出勤をせざる負えない状況となっている。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

学校ではFAXでのやり取りを基本的に廃止する方針としているが、業者又は教育委員会とFAXでのやり取りが慣行として行われている状況のため、廃止が出来ない状況である。また、教職員が学校へ提出する事務手続きにはクラウド化されておらず、書類への押印が必要な物も混在している。そのため、提出先へ持参するための時間が必要となり、業務完了までに日数がかかっている。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

常陸太田市では、児童生徒の欠席・遅刻等に関して保護者から校務支援アプリで受け付けているが、学校保健管理に校務支援システム外のソフトウェアを使用しているため教職員による校務支援システムへの再入力が発生しており、大きな負担となっている。

【取組方針】

現状と課題から常陸太田市では、下記の通り校務DX推進を図っていく。

(1) クラウドツールの整備・活用

ゼロトラスト環境については未整備のため、ベンダー等と検討を進めていく。また、テレワークに必要なシステムについて、県域外からの情報を収集し、検討を進めていく。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXは原則使用しない方針とし、業者等とはメールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。また、教育委員会とのやりとりは原則校務支援システムを使用することを徹底していく。

押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。また、データでの提出により業務の即時完了を目指し、残業時間を圧縮していく。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

学校保健管理機能を校務支援システムに搭載し、各データを連携することで手入力ゼロをめざし、教職員の業務負担軽減を図る。